

戦国時代、太田道灌が防衛のために、江戸城と川越城を築城し、古道をつなぎ合わせ一本の道を通しました。

江戸時代に入り川越藩の松平信綱により道を整備して、川越街道としました。今回は成増から白子宿、浅久保通りを通る和光ルート歩いてみました。

徒歩 富士浅間神社(浅久保富士)まで
C1ハイツより約1.2km(17分)
成増駅より約2.1km(30分)

江戸時代の川越街道

- 市内循環バス
- 白子・吹上コース
- 向山・牛房コース
- 東武バス

→白子橋の欄干には、清水かつらの「くつが鳴る」の歌詞が刻まれています。



旧街道分岐点



新宿八坂神社



子育て地蔵



↑街道があった当時を偲ばせる建物を見かけます。



→武蔵野台地の地層の観察、豊かな湧き水にめぐまれ、斜面林とその林床では貴重な野草を観察が魅力です。

↓武田信玄の家臣の子、柳下外記規道が富士吉田浅間大神を信仰し、その分霊を祀り、富士塚(富士信仰)を築いた。裏側には武蔵御嶽神社の祠があります。



富士浅間神社(浅久保富士) →
← 馬頭観音
↓ 武蔵御嶽神社



↑ 馬頭観音は頭上に馬の顔が刻まれ、光背型坐像形の馬頭は市内唯一のものです。

